

皆さんのお買い物が

東日本大震災から7年余り

東日本大震災から8年目に入ります。被災した地域や学校の再生はなお途上であり、地元帰還の展望さえ描けない地域も残る福島県をはじめ、岩手、宮城両県を合わせた3県の被災校は息の長い支援を求めています。

ベルマーク財団は震災直後、3県と茨城県にノート、鉛筆、クレヨンなど計800万円相当の緊急支援を実施しました。その後も2017年度までの7年間で、被災地支援プロジェクトとして3県を中心に延べ1622校に対し、計4億6823万円相当の支援をしてき

ました。

各校が必要とする設備品や教材を贈呈したほか、中学校には生徒がクラブ活動や校外学習などの際に使うバス代の直接援助にも取り組んでいます。

2018年度はプロジェクト8年目に入りますが、これまでと同じように岩手、宮城、福島3県の被災校を対象に、積極的に支援を続けます。

ベルマーク運動参加校・団体のお買い物を通じて生まれる通常の支援資金や寄付、寄贈マークなどに加え、5年目に入った「ウェブベルマーク」からの助成金も活用します。



狭い場所でも
みんなで仲良く一輪車の練習。
岩手県宮古市立重茂小学校



デジタル教科書で楽しく勉強。
宮城県気仙沼市立鹿折小学校



仮設校舎の教室でも、
生徒たちはいきいきしていました。
岩手県陸前高田市立気仙中学校

支援金を生みます

「寺子屋」事業にも支援

子どもたちの学びを支えているのは、学校だけではなくありません。学校では対応しきれない放課後の学習支援や、子どもたちの居場所づくり、被災校への学生ボランティア派遣のほか、夏休みには子どもたちの勉強や遊び相手、キャンプに出かけたりもする。そんな「寺子屋」的な活動をしている団体があります。財団は2015年度から、そういう事業の支援にも新たに乗り出しました。3団体に対し、年間50万円の資金を提供しています。



仮説住宅で学習支援を続ける
NPO法人ビーンズふくしま

東北・九州の被災校から 感謝のメッセージ

あの東日本大震災から5年たった2016年、こんどは熊本・大分を中心とした群発地震があり、多くの学校も被害を受けました。ベルマーク財団では、熊本・大分の被災校に対する支援事業も継続して行っています。

対象の学校や子どもたちからは、支援に感謝するメッセージが届いています。



阿蘇市立
一の宮中学校

阿蘇市立一の宮中学校 生徒一



福島県大熊町立
大熊中学校



岩手県大船渡市立
赤崎中学校